

# 地銀協レポート

vol. 17

2025.6.18

こんなことまで！？地方銀行

若手人材育成



# 私たち、地域の「銀行」なんですけど、最近、こんなことまでやってます！

銀行の仕事と聞いて、どんなイメージを思い浮かべますか？ 皆さんの預金を預かる仕事でしょうか？ 企業へ融資をする仕事でしょうか？ もっとざっくりと、お金を取り扱う仕事でしょうか？ 銀行の仕事の多くは、確かにお客様のお金に関係していますが、最近では、その枠組みを超えて、様々なことにチャレンジしています。今回は、「地方銀行ってこんなことまでやってるの？」という事例を2つ、ご紹介したいと思います。

## 山口フィナンシャルグループ



SOIL Nagatoyumotoの外観。山口FG提供。



音信川と美しい山並みを一望できる客室。山口FG提供。

### 1 地方銀行が旅館を再生！長門湯本の新名所

新山口駅から車で約50分、長門市内から車で約10分の谷間にある温泉郷、長門湯本温泉。2025年3月15日、この地に、客室・サウナ・レストラン・アクティビティセンター等を備えた複合施設「SOIL Nagatoyumoto」がグランドオープンしました。この施設のオープンに深く関わっているのが、山口銀行や北九州銀行等を傘下を持つ山口フィナンシャルグループ（FG）です。

### 2 旅館を受け継ぐ—地方銀行の挑戦

長門湯本温泉は、およそ600年前に住吉大明神からのおつげによって発見された、山口県でもっとも古い歴史をもつ温泉として知られており、江戸時代には藩主も湯治に訪れたと言われています。しかしながら、人口減少や観光スタイルの変化に対応できず、宿泊者数が減少し、2016年時点で宿泊者数がピーク時から半減してしまっていました。

こうした状況を打開すべく、山口FGは、2017年に長門市と包括連携協定を締結し、長門市と協力して、長門湯本温泉の観光まちづくりの推進や創業支援・事業承継など地域課題解決に向けた活動を行っていました。

そのような中、長門湯本温泉の中心に位置する創業120年の老舗旅館「六角堂」が、後継者が見つからずに、事業承継への課題を抱えていたことから、山口FGは、宿泊施設運営等を手掛ける㈱Stapleとの共同出資により、新会社「SOIL Nagatoyumoto」を設立して、「六角堂」を承継し、大規模リノベーションによる旅館再生に取り組むこととしました。

さらに、山口FGは新会社に対し、事業費の融資、社外取締役の派遣による経営への参画に加え、事業運営に関するコンサルティングを行うなど、グループ全体でサポートを行っています。

### 3 「泊まる」宿から「つながる」宿へ

2025年3月にオープンした「SOIL Nagatoyumoto」は、施設の中で完結せず、長門湯本温泉のまちや自然環境、地域の人々とのつながり、交流する機会を作るように設計された「温泉街とつながる宿」になっています。例えば、1階のアクティビティセンターでは、地元住民との交流を通じて、昔ながらの釜炊き製法による塩づくりや、林業士とまわる森林ツアーなど、長門湯本の文化や自然を感じられるアクティビティが体験できます。施設内のイタリアンレストランでは、地域の生産者と連携し、四季折々の素材を活かした料理が提供され、長門湯本の自然の恵みを感じられます。また、宿泊者は、約600年の歴史を持つ長門湯本の立ち寄り湯「恩湯」を無料で利用できます。施設だけでは終わらないこの仕組みは、長門湯本のまちづくり計画の根幹になっている「回遊性」、つまりまち全体を楽しんでもらう心づかいとつながったものです。

皆さんも、近くに行かれた際は、長門湯本温泉まで足を運んでいただき、ぜひ、温かい温泉と人とのつながりを体験していただいて、心と体のリフレッシュをしてみませんか？



塩づくり体験の塩釜。山口FG提供。

## 池田泉州ホールディングス



チョイソコきしわだの出発式には、岸和田市のゆるキャラ・ちきりくんも駆けつけました。池田泉州HD提供。

### 1 地域の足を地方銀行が守る

高齢化や人口減少が進む地域においては、公共交通利用者の低迷や運転手不足等により、地域の交通維持に深刻な影響が生じています。池田泉州銀行等を傘下を持つ池田泉州ホールディングス（HD）は、こうした地域課題の解決のため、モビリティ事業に参入しました。

### 2 ニュータウンの「交通空白」

日本では、1960年代以降、都市郊外で巨大な住宅団地（ニュータウン）の開発が進みました。池田泉州HDの本社所在地である大阪でも、千里ニュータウンや泉北ニュータウンなど、大阪のベッドタウンとして開発されたニュータウンが多数あります。

しかし、開発から半世紀以上が経過し、オールドタウン化した「オールドニュータウン」も出てきています。オールドニュータウンでは、施設の老朽化や入居者の高齢化等が生じているほか、人口減少による利用者の減少や、バスやタクシー等の運転手の不足等により、公共交通機関の維持が困難となり、交通空白が生じている地域も出てきています。

池田泉州HDは、交通空白により、高齢者の買い物や通院などが地域における大きな悩みの1つとなっていることを踏まえ、2023年から地元におけるAIオンデマンド型交通の運用支援を開始。2024年3月には、この取り組みを更に広げるべく、新会社「池田泉州エリアサポート株式会社」を設立して、AIオンデマンド型交通事業に参入しました。



停留所の看板。池田泉州HD提供。



住民向け説明会にはたくさんの参加があり、地域からの注目度の高さがうかがえます。池田泉州HD提供。

### 3 銀行が届けるAI交通サービス

同社が取り組むAIオンデマンド型交通は、それぞれの利用者が希望する乗降場所や道路状況などから、AIが効率的な運行ルートを導き出し、目的地まで乗り合い送迎する仕組みです。利用者は事前に会員登録することで利用できます。公共交通機関がない地域に住む方や、公共交通機関の利用が困難な高齢者の方の利便性向上が狙いです。

また、同社は、交通手段とコトづくりの連携として、工場見学、ウォーキングイベントなど高齢者の外出促進に繋がるイベントを積極的に開催し、AIオンデマンド型交通の利用促進と高齢者の健康増進を図っていくことも想定しています。地元自治体や事業者等とのネットワークを持つ地方銀行の強みを活かし、地域の事業者に停留所スポンサーになってもらう、あるいはイベント開催に関与してもらうなど、地域が一体となり、地域の交通を支えつつ、地域の活性化に繋げていくスキームです。

### 4 更なる地域拡大を目指す！

池田泉州HDは、これまでに阪南市、泉南市、和泉市、岸和田市、豊能町の5つの市町において、地元の自治体や交通事業者とともに、実証実験を行ってきました。このうち、和泉市については、一定の利用実績と高い評価を得たことから、本格運行へと移行しています。また、2024年12月～2025年3月にかけて実施した岸和田市の実証実験は、池田泉州エリアサポート株式会社としての初の直接契約となりました。

池田泉州HDは、これらの実証実験・本格運行で蓄積した知見・ノウハウを活かし、他の自治体にもAIオンデマンド型交通を展開していくことを目指しています。交通空白に取り組み、地域のお客様の「足」を守る、池田泉州HDの挑戦は続きます。

|                                                                                                                                                                                       |                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 私たち、地域の「銀行」なんですけど、最近、こんなことまでやってます！・・・1                                                                                                                                                |                                                                                    |
| 若手人財の原石を磨き、光り輝く地方銀行員へ・・・4                                                                                                                                                             |                                                                                    |
| 行こか！大阪・関西万博～地方銀行が世界に魅せるミライ～・・・9                                                                                                                                                       |                                                                                    |
| 協会ニュース・・・11                                                                                                                                                                           |                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ー 2025年度の役員改選を行いました</li> <li>ー 地方銀行で働くリアル、気になりますか？</li> <li>ー 「株式会社生活基盤プラットフォーム」を設立しました</li> <li>ー 「地方銀行における環境・気候変動問題への取り組み」を公表しました</li> </ul> |                                                                                    |
| 統計グラフ・・・14                                                                                                                                                                            |                                                                                    |
| 地方銀行のNISA取扱状況は、口座数・買付額共に増加しています                                                                                                                                                       |  |

Cover photo — No.008

## TDテラス宇都宮 (東邦銀行 宇都宮支店)

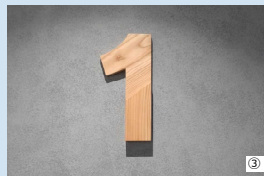
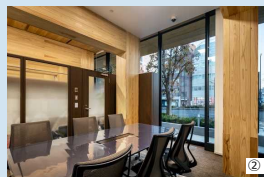
栃木県宇都宮市泉町 1-2-9

木の柔らかな雰囲気包まれ、なんだか温かい気持ちになる。そんな建物が、「TDテラス宇都宮」です。2022年9月に完成した地上4階建てのビルには、1階に東邦銀行 宇都宮支店、2～4階に第一生命 栃木支社が入居しています。生命保険・銀行業界では国内初となる、中層木造オフィスです。

このTDテラス宇都宮では、柱や梁など建物の骨組みに、東邦銀行が本店を置く福島県で育ったカラマツ、床や壁などの内装に、栃木県産のスギと、“地元の木”がふんだんに使われています。さらに、木材の製材・加工工程の大半を福島県内の工場で担い、建物の組み立ては栃木県の職人が施すなど、いわば地域の力を集結して完成させた建物となっています。

さらに、木造としたことで、環境への配慮も実現。木材は、金属やコンクリートなどに比べて加工に必要なエネルギーが非常に小さく、CO<sub>2</sub>の排出が抑えられます。また、木は光合成によって大気中のCO<sub>2</sub>を吸収していますが、実は、木材に加工された後も、CO<sub>2</sub>は木の中に固定され続けるのだそうです。1本の木が吸収できるCO<sub>2</sub>の量は成長とともに減ってしまうため、成熟した木を伐採して積極的に木材として活用し、かわりに新たな木を植えて循環させることで、効率的なCO<sub>2</sub>減少にも繋がります。

東邦銀行は、地元福島県と栃木県の木を最大限に生かしたTDテラス宇都宮を通じ、四半世紀にわたり店舗を構えたこの地の地域経済にこれからも貢献していくことを目指して、訪れる人や働く人にとって心地よいだけでなく、地域にも、そして地球にもやさしい建物となるよう追求したのです。



①建物のエントランス。木のぬくもりに柔らかな光が相まって、温かい雰囲気を演出しています。②銀行店舗内も、ふんだんに木材が使われています。③建築過程で出た木の端材を有効活用した階数表示サイン。廃棄物を資材として再利用して循環させる「サーキュラーエコノミー」の考えが取り入れられています。端材は手すりの一部にも用いられました。

# 若手人財の原石を磨き、光り輝く地方銀行員へ

研修事業部 調査役 小林 清恵

- 地方銀行の若手行員は、地元の有望な人財であり、地域経済と地方銀行の将来を担う“原石”です。
- 若手行員は、生まれ育った地域に貢献するため、自身の能力向上やキャリアアップに対して、強い成長意欲を持っています。
- こうした思いに応え、原石を磨き、若手行員を地域にとって“光り輝く存在”となるよう取り組んでいる地方銀行の人材育成術を紹介します。

## はじめに

「自分が育った愛着のある地域に恩返ししたい！地域を盛り上げたい！」との高い志や信念を胸に抱き、多くの若手行員が地方銀行の最前線で活躍しています。こうした若手行員は、行内の研修制度や実際の業務を通じて、自らの成長やキャリアアップを図っていききたいとの強い意欲を持っています。このような期待に応えるため、地方銀行は、若

手行員のモチベーションアップやキャリアアップに積極的に取り組んでいます。

本レポートでは、そうした地方銀行の取り組みを紹介し、これを読んだあなたは、地方銀行はこんなこともやっているんだ！？若手行員にこんなに手厚いんだ！？と、きっと新たな発見があるでしょう。

## 若手社員の成長に手厚いサポート！ ～大垣共立銀行～

### 社員育成ファンドで、貪欲に成長！

岐阜県に本店を置く大垣共立銀行は、全社員を対象に、自律的な学びを支援する制度として、「社員育成ファンド」を用意しています。本ファンドは、社員が学びたいスキルや知識を選び、数枚程度の企画書を提出することで利用でき、同行がその費用を全額負担します。

銀行業務に活かせる内容であれば、ほぼすべてを承認しており、2024年度は、200名弱から利用申請がありました。例えば、取引先のPR活動のコンサルティングを行う際に、納得感のある説明ができるようになりたいとして、ブランドマーケティング研修への参加を承認したケース等があります。

ただ、同行人事部能力開発センター 遠藤敏浩所長は、「全社員に対して、本ファンドを使って学んでほしいと発信しているが、まだまだ利用者数が少ない」と課題を感じています。そこで、社員の活用を促進するための仕掛け作りとして、本部各部と連携して、銀行の側から、複数のメニューを用意しました。そのメニューの1つとして、以前より、社員から海外研修に対する根強い要望があったことを踏まえ、2024年11月、同行現地子会社（OKB Consulting Vietnam）と現地進出企業の視察を通じて、お客さまへの提案力を高めることを目的に、ベトナムへの海外研修を企画・開催しました。

本海外研修には、応募した11名の社員が参加しました。この参加者の中に、服部耀介さん（各務原支店、入社3年



▲ 社員育成ファンドの概要（「大垣共立銀行 統合報告書2024」より）。



▲ 服部耀介さん。

目（取材時：以下同じ））がいます。得意先係（法人営業担当）の服部さんは、取引先がベトナム進出を考えていた



ため、ベトナムの経済や日系企業の進出状況等を肌で感じたいと思い、本海外研修に応募しました。

服部さんは、「ベトナムで現地の法規制や日系企業の工場立地制限等の実情を学ぶことができ、帰国後、取引先との会話に深みが出た」と、熱気あふれるベトナムの空気を思い出しながら語ってくれました。取引先から「ベトナムに工場を建てたい」と相談された際、以前であれば明確な返事ができませんでした。しかし、今では「ハノイやホーチ

ミンといった地域ごとのメリットやデメリット等について、自信を持って踏み込んだ提案ができるようになり、取引先との対話の質が向上した」と実感しています。

同行は、こうした事例を社内で広く共有すること等により、ファンドの活用促進を引き続き図っていきたいとしています。そして、2023年度に1,500万円からスタートしたファンド規模を2026年度には5,000万円に拡充する予定とのことです。

#### 銀行では得られない異業種での経験を社内に還元！

同行は、広い視野と柔軟な価値観を持った人材の育成を目的に、テレビ局や不動産業界、コンビニ、ホテル等、異業種への研修派遣（1年～1年半）を行っています。異業種研修に参加した社員は、その経験を銀行全体や所属部署に還元しています。例えば、コンビニでの研修に参加した社員は、気軽に立ち寄れるコンビニをモデルに、立ち読みできる雑誌コーナーや無料の喫茶コーナーを設置した店舗を企画しました。また、ホテルでの研修に参加した社員は、開放感のあるロビーラウンジや多目的に活用できるセミナールーム等を設置し、お客さまとの新しいコミュニケーション空間を演出したサービス拠点を企画しました。

コンビニ研修参加者が企画した半田支店「コンビニプラザ半田」(上)、ホテル研修参加者が企画したサービス拠点「OKB Harmony Plaza名駅」(下)。いずれも大垣共立銀行ウェブサイトより。



このほか、異業種研修に参加した社員は、同行の階層別研修等においてその経験談を話す「伝道者」としての役割も担っています。堀翔磨さん（広報部、入社9年目）は、入社7年目のときに異業種研修に応募し、テレビ局に1年間出向しました。研修の最終ゴールを「情報番組での特集コーナーを1人で作り上げる」ことに設定し、1年間かけて、企



▲ 堀翔磨さんの異業種研修の様子。大垣共立銀行提供。

画書作成、取材対象先のリサーチ方法、取材方法、撮影・編集の技術を学びました。そして、ディレクターとして、特集コーナーを制作し、実際にテレビで放送されました。

堀さんは、「テレビ局では『まずやってみる』文化があり、マニュアルに沿って慎重に物事を進める銀行業務とは対照的だった」と、この違いに衝撃を受け、やや戸惑ったと言います。ただ、「柔軟な発想力やスピード感、情報の伝え方を身に付ける貴重な経験が得られた。特に、映像制作におけるノウハウは、今の業務にも活かされている」と誇らしそうに話してくれました。

こうした中、コロナ禍に入社した3年目の社員は、集合研修や職場での様々な交流等が制限された世代であるため、遠藤所長は、3年目の社員を対象とした若手社員研修を初めて企画するにあたって、普段話しかけがちな年代・部署の社員と交流する「ナナメのつながり」の機会を設けたいと考えていました。そこで、堀さんにテレビ局で

の研修の経験談を話してほしいと依頼しました。そして、2024年10月に開催した若手社員研修で、堀さんは、テレビ局で学んだことや、身に付けた知識をどのように現在の広報部での業務に活かしているかについて話をしました。

若手社員研修に参加した服部耀介さん（前出）は、堀さんの話から、「本部の業務や将来のキャリア像について具体的なイメージが持つことができた。また、銀行業務に捉われない広い視野を持つことの重要性に気づいた」と、感銘を受けたそうです。また、荒川珠月さん（岐南支店、入社3年目）は、堀さんの話を聞き、「銀行では得られない新しい知識を習得し、それを業務に活かしている姿に刺激を受けた」と、高揚感に満ちた表情で話してくれました。2人とも、「将来的には外部研修等の学びの機会を活用し、本部業務も経験してみたい」と声を揃えて希望を語ってお

り、先輩社員の話は若手社員のキャリア形成にとっても刺激となっています。

遠藤所長は、「社員育成ファンドを活用した社員や、異業種研修に参加した社員に社内研修等で話をしてもらう機会を増やすことで、経験や知識を組織全体に還元してもらうとともに、若手社員の視野を広げてほしい」と期待を寄せています。



▲ 荒川珠月さん。

#### 若手行員のやる気に、スイッチ・オン！ ～滋賀銀行～

##### 周囲の評価でモチベ向上！

滋賀銀行は、「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」を「行是」（共有する価値観・行動指針）として掲げています。2024年10月、「挑戦」と「称賛」の企業文化を醸成することを目的に、行是を体現する行動をした役職員を表彰する「しがぎんヒューマンアワード」を新たに創設し、その第1回目を実施しました。

具体的には、約1か月間、グループ全役職員に対して、「あなたの周囲で行是を体現する行動として、日々の業務の中で工夫や改善をしている役職員や、新しいことにチャレンジしている役職員がいれば、理由（メッセージ）も含めて投票してください」と呼びかけました。その結果、全

体の約6割にあたる約1,300名もの役職員に対して、2,400票を超える投票が寄せられました。

これを踏まえ、人事部を中心に選考を行い、金賞1名、銀賞14名、銅賞16名、新人賞2名、特別賞36名の計69名を選定しました。選考にあたり最も重視した点は、「人ではなく行動や役割に焦点を当てること」と「共感と納得感」でした。同行人事部人材開発グループ 植田義憲課長は、「日々の業務をよりよくするために行動し、周囲により影響を与えていることが読み取れるメッセージをもらった方で、『あの人のなれば』と周囲から共感・納得感が得られるような方を選定した」と話します。



▲ 2025年2月に開催した表彰式の模様。滋賀銀行提供。



このうち、若手行員を対象とする新人賞の受賞者の1人である中嶋穂香さん（北大路支店／一乗寺支店 資産運用アドバイザー、入行3年目）は、率先した電話応対や挨拶等の“やって当たり前”と思われがちな行動のほか、掃除等も自主的に日々やり続けている姿勢が評価されました。

中嶋さんは、「誰かの役に立ちたいという思いで、元気に挨拶したり、誰よりも早く積極的に電話に出たりすることを日頃から心がけている」と澁淵と話します。ただ、「正直、自分が受賞するとは思っていなかったで、びっくりしました」と、少しはにかんだ表情が印象的でした。

中嶋さんに投票した方からは、「仕事のコツや工夫等を惜しみなく教えてくれる」、「どれだけ忙しくても、常にロビーや周囲への気配りを欠かさず、誰よりも早く電話対応している」、「一人ひとりへのしっかりとした挨拶等、何事においても初心に返ったように日々業務に取り組んでいる」等のメッセージが寄せられました。中嶋さんは、「現在の営業店の同僚からだけでなく、前店店の同僚からもメッセージが寄せられ、感激が胸がいっぱいになった」と話します。

さらに、中嶋さんは、こうした行動をするようになったきっかけについて、「周りに尊敬できる人が多く、そうした人たちに追いつきたい気持ちから、自分ができることを精一杯やろうと思うようになった」と、周囲の憧れの先輩行員を思い浮かべながら話してくれました。そのうえで、「日々、時間や仕事の調整が難しいときもあるが、上司や

先輩等の周囲のサポートを受けているので、何とか自分らしく仕事ができていると感じている」と、周囲への感謝も忘れません。このように、中嶋さんの目標や模範となる周囲の方々が、中嶋さんの能力とモチベーションを引き出し、理想的な職場関係が構築されていることが窺えました。

中嶋さんは、現在担当している個人外交（個人顧客への投資信託等の販売業務）が大変だった時期に受賞の連絡があり、気持ちを前向きに切り替えることができたそうです。受賞を機に、「個人外交により集中して取り組み、スキルを磨き、地域のお客さまの役に立てるようになりたいとの思いが、一層強くなった」と力強く話してくれました。

本アワードでは、表彰の有無にかかわらず、投票されたメッセージを全役職員にすべて匿名でフィードバックしており、投票された役職員のモチベーション向上につながっています。人事部には、「もらったメッセージを紙に出力して、いつも机の中に入れて」、「つらいときにメッセージを見返している」等の声が寄せられているそうです。植田課長にも複数のメッセージが寄せられたとのこと、中嶋さんに見て頑張ろうと思えるし、会社からフィードバックされる業績評価や人事考課とは違ったうれしさがある」と笑顔で答えてくれました。

同行は、引き続き、中嶋さんのような若手行員が育つ企業文化の醸成に一層取り組むとしています。

## 体験談の発表は、聞き手だけでなく話し手の成長にも！

同行は、最近の新入行員の特徴を「真面目で、教えられたことをしっかりと実践する」、「自己成長意欲が高い」、「先輩や同僚とのつながりを求める傾向が強い」一方、「競争や失敗の経験が比較的に少ないため、挑戦することに対して慎重になりがち」と捉えています。そして、新入行員の中には、「営業はどちらかというと苦手」、「お客さまときちんと話せるか心配」といった不安を抱えている人が多いそうです。

こうしたことを踏まえ、同行は、新入行員研修のカリキュラムの一部に、入行2～4年目の先輩若手行員から自身の体験談を話してもらう時間を設けています。植田課長は、体験談の話し手として、「営業成績云々ではなく、生き生きと働いていて、親近感が持てる行員を選定している」と話します。「苦労しながら一步一步成長している先輩若手行員のリアルな実体験を聞くことで、新入行員の不安を和らげるようにしている」と、その狙いを明かしてくれました。実際、新入行員は、「頑張っている先輩の話聞いて、自分ももっと頑張らなければならなかった」、「法人営業はできないと決めつけていたが、自分にもできる気がしてきた」と、前向きな気持ちに変わるきっかけになっているそうです。

また、話し手の先輩若手行員にとっても、これまでの自分の業務内容を振り返り、20分程度で新入行員に伝わるように具体的に話を展開することが求められるため、プレゼンテーション力を磨く機会になっています。併せて、研修後に新入行員から提出された受講アンケートの内容は、すべて話し手の先輩若手行員にフィードバックされるため、話し手のモチベーションアップにもつながっています。

横田佑梨さん（本店営業部得意先係、入行3年目）は、2025年2月に開催された「外交基礎研修（事業性外交編）」で体験談を披露しました。横田さんは、体験談の発

表者に選ばれたとき、「責任の重さを感じたが、自分の経験が新入行員の役に立つかもしれないと思ってうれしかった」とのことです。

体験談では、入行3年目から法人営業担当となり、仕事で意識していることについて話しました。特に、取引先企業に積極的に顔を出し、「何か困っていることはありませんか」と、ひと声添えることを意識し、話やすく気軽に相談しやすい関係を築く中で、「お客さまの理解者となること」、「スピーディーかつ正確な対応を行うこと」が重要であることを具体的に話しました。

横田さんは、この体験談を発表したとき、「新入行員の目が輝いていたことが印象的だった」そうです。また、普段は意識することが少ない、仕事をするうえで心構えや、これまでの自分の仕事の棚卸しにもつながるよい機会になったそうです。今後は、これまで体験したことをもとに、後輩に的確なアドバイスができるようになっていきたいと抱負を語ってくれました。



▲ 横田佑梨さん。



▲ 中嶋穂香さん（左）、新人賞の盾（中央）、第1回「しがぎんヒューマンアワード」新人賞受賞者（右）。右2枚は滋賀銀行提供。

## おわりに

今回紹介した2行は、若手行員が「成長したい」という想いを後押しする環境を整えています。この2行以外の地方銀行でも、若手行員の成長を支援するため、現在の部署に在籍しながら異動してみたい他部署の業務を経験する行内兼業制度を設けたり、業務終了後に定期的に他部署の行員と交流

できる機会を設ける等の様々な取り組みを行っています。

地方銀行は、働きやすく、成長しやすく、実際にキャリアアップできる環境を用意しています。学生のみなさん！将来のキャリアの選択肢として、ぜひ「地方銀行」を候補に考えてみてはいかがでしょうか？

こちらのレポートはいかがでしたか？ぜひ、ご意見・ご感想をお聞かせください！ ▶▶▶

クリック

or



# 行こか！大阪・関西万博 ～地方銀行が世界に魅せるミライ～

もうすぐ夏休み！夏のご予定は立っていますか？未来を垣間見ながら、世界一周なんて旅はいかがですか？「そんな夢の旅なんてあるわけがない」とお思いですね？それが、あるんです、大阪は夢洲に。大阪・関西万博です！世界の160を超える国と地域等のパビリオンが集結。その土地の名物料理だって味わえちゃいます。

ご自身の25年後の姿もちょっと見てみたことはありませんか？そして、地球と人類の未来を助けるかもしれない日本の進化する技術力も必見！どちらも大阪ヘルスケアパビリオンで体験可能です。

こうした確かな技術を持ち、まだ世界には知られていない地元企業と地方銀行はたくさん繋がっています。一部ですが、大阪ヘルスケアパビリオンの一画「リボンチャレンジ」に出展していますので、ご紹介いたします！

## 関西みらい銀行

大阪・関西万博の開催期間全26週間のうち4週間が、大阪府に本店を置く関西みらい銀行を含みりそなグループの展示期間で、4週をそれぞれ春・夏・秋・冬の四季にぞらえたコンセプトとしています。今回ご紹介するのは、4月21日～28日に実施された「夏」。夏といえば、青い海、緑の山々、太陽の強い日差し。これらの自然環境を守ることは重要です。そこで「夏」のテーマはSDGs・環境とし、自然と共存するための技術を持つ同グループ押しの企業10社が自慢の技術を展示しました。

ついこの間まで、ここ日本で経験することのなかった夏の酷暑に豪雨。地球上で過剰に排出される二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）が原因と言われています。もし、1人ひとりがCO<sub>2</sub>の削減に貢献できたら、すばらしいと思いませんか？それも美味しく。そんな「美味しい」技術を開発するのが、株式会社ノベルジェンです。陸上で、短期間で、高品質の牡蠣を育てて、食べて、CO<sub>2</sub>削減を目指します。牡蠣は、CO<sub>2</sub>を吸収しながら増殖する植物プランクトンを餌に成長し、そのCO<sub>2</sub>は貝殻に閉じ込められます。人間が牡蠣の身をいただき、牡蠣殻はコンクリートにして地中に埋めてしまう。これは、CO<sub>2</sub>の吸収とmade in JAPANの牡蠣養殖を同時に行うミライの技術です。

他にも、都市・過疎地・砂漠といった地域で、省スペースで魚の大量飼育が可能だけでなく、植物の栽培までも組み合わせ、効率的で環境に配慮した食糧生産を目指すレックス工業株式会社の水の循環システムや、これまでにないほぼ清浄な再生水の生成技術で、水道が整備されていない場所でも水洗トイレのような快適さを実現した株式会社TI plusホールディングスの自己完結型 排水リサイクルトイレシステムなど、地球にやさしいミライの技術が展示されました。「夏」は終了しましたが、9月2日～8日の「秋」と9月9日～15日の「冬」に、ぜひ実際に足を運んでみてください。そこには、まだ出会ったことのないミライが広がっています。

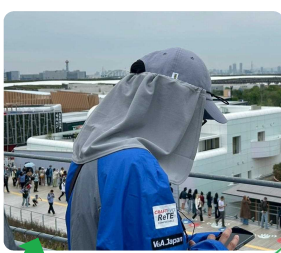


「どうして牡蠣なの？」  
牡蠣は他の貝と違って、付着すると、生涯、そこから動かず成長するので、肥育しやすいそうです。

水源不要！排水放流なし！臭わないトイレ！「未来を守るトイレを世界中に」ミライのトイレ「エコノフ」。



一体システムで、植物も魚も同時に育てることができる「未来の都市型農漁業」。今回は、数万匹に1匹しか現れない珍しいパンダなぎも来場。



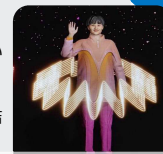
㈱たまゆら×高麻俣の帽子を着用する運営スタッフを発見！詳しくは、「地銀協レポート」vol.15をご覧ください。



「鳥の巣」をイメージしたパビリオン外観。

## 大阪ヘルスケアパビリオン

地元大阪の自治体や企業、大学、そして府民・市民等が一体となって、「REBORN」をテーマに出展するパビリオン。「25年後の自分」に会えるリボン体験を始め、いのちや健康、近未来の暮らしが体感可能な、わくわくする展示が満載！オール大阪の知恵とアイデアを集結し、大阪のパワーを世界に発信します。



「25年後の自分」は、このようにディスプレイに表示されます。

## 池田泉州銀行

5月20日、リボンチャレンジに、「大阪超越文化横丁」が出現しました。ここでは、これまでの常識を“超越”する、新たな技術やサービスが創り出す面白いミライを見ることができます。展示を主催するのは、大阪府に本店を置く池田泉州銀行。パンフレットを受け取ると、さすが大阪。面白いキービジュアルが目を引きまします。めくってみると、訪れた日は、展示期間3週間のうち第1週目で、「大阪発！ワクワクする未来の暮らし」がテーマの10社の展示が行われていました。

早速、中に足を踏み入ると、「この折り紙、こすって香りを嗅いでみてください」と声をかけられました。試してみると、とても爽やかな香り。ここは、香り付きインクを印刷する技術を持つ久保井インキ株式会社のブースです。良い香りにはリラックス効果がありますが、実は認知機能を回復させる力を持つ香りというもあるんだそうです。好きな形を折り指先で頭を使いながら、香りでも脳を活性化させる。魔法のような折り紙が身近になるミライが、もうすぐやってくるかもしれません。

先に進むと、小さな水槽を発見。中には、株式会社ノイカの技術により、マングローブの生態系が再現されていました。ノイカは、海を始め、世界中に実在する水の世界を、水槽の中に完全再現できる環境移送技術®を持った企業です。再現された世界は、見て美しいだけでなく、例えば、環境にやさしい日焼け止めを開発するとき、塗ったまま海に入っても、そこに棲んでいる動植物に悪影響は無いが、実験するのに活用されたりします。ミライの環境を守る重要な役割を担っているのです。

さらに進むと、今度は「お姫さま抱っこ」を体験できるブース。展示されていたのはハンモック型のロボット「SASUKE」です。これがあれば、ハンモックでくつろいだ体勢のまま、ベッドから車いすへ、そしてソファへ……など、楽々と移乗することができます。開発したのは、介護用ロボットなどを数多く手掛けるマッスル株式会社。同社の技術により、高齢化が進む日本でも、介護する側・される側の両方にとって、安心して快適なミライが実現されるでしょう。

6月9日をもって、「大阪超越文化横丁」は幕を閉じてしまいましたが、専用サイト (<https://www.w.sihd-bk.jp/corporation/expo2025/choetsu/>) ではまだまだ出展企業の情報を見ることができます。これからの「面白いミライ」を引っ張る企業のきらりと光る技術に、要注目です。



マングローブを再現した水槽。魚も元気に泳いでいます！



香り付き折り紙は、いちごやバナナ、アロマキャンドルなど、展示されているだけでも14種類の香りがあります。折り紙でできたミャクミャクもいました。



「お姫さま抱っこ」を体験中の池田泉州銀行 阪口 広一 取締役専務執行役員(取材当時)。



大阪超越文化横丁のパンフレット。

今回ご紹介した企業の出展は終了していますが、1週間ごとに次々と、色々な企業が出展しますので、何度行っても新しい発見と楽しみがあるのも万博の魅力です。「夢の旅」は10月13日までの期間限定ですので、ご来場はお早めに。

## 2025年度の役員改選を行いました

当協会は、第76回「定時会員総会」において2025年度の協会役員として理事28名の選任を行い、同日開催した理事会において、正副会長を右表のとおり決定しました。

理事名簿や正副会長の略歴等は当協会ウェブサイト (<http://www.chiginkyo.or.jp/association/opinion-information/information/001452.html>) をご覧ください。

|     |          |                |
|-----|----------|----------------|
| 会長  | 横浜銀行     | 頭取 片岡 達也（新任）   |
| 副会長 | 池田泉州銀行   | 頭取 鶴川 淳（再任）    |
|     | 東邦銀行     | 頭取 佐藤 稔（再任）    |
|     | 静岡銀行     | 頭取 八木 稔（再任）    |
|     | 千葉銀行     | 頭取 米本 努（新任）    |
|     | 全国地方銀行協会 | 専務理事 川上 尚貴（再任） |

## 「地方銀行で働くリアル」、気になりませんか？

「銀行員って、支店の窓口でお金の出し入れをしている、あの人たちでしょ？」いえいえ、実は、銀行員の仕事は現金を扱うだけではないんです！

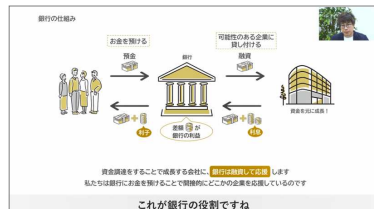
幅広い業界の企業を相手に、融資（お金を貸すこと）はもちろん、

- ✓事業の計画と一緒に作ったり
- ✓新しい販路を開拓したり（海外に進出することもあり）
- ✓デジタル化のお手伝いをしたり
- ✓事業を後継者に引き継ぐサポート（M&Aなど）をしたり…

など、銀行の法人営業はいろいろな仕事をしています。そんな「地方銀行で働く魅力」を、これから就職について考える学生みなさんに伝えたいと、この度、当協会は動画を作成し、公開しました (<https://mcstudy.mynavi.jp/mem/course/181478>)。

動画は、①講師が「経済・金融」や「地方銀行」の基本を分かりやすく解説する「ミニセミナー」と、②会員銀行の若手法人営業担当者3名が、地方銀行に入ろうと思ったきっかけや、将来目指す姿等をテーマに対談する「座談会」の2部構成。20分程度の気軽に見られる内容で、金融・銀行業界や、地方創生、UIターン就職に興味がある方にとっては、きっと就職活動の役に立つはずです。

私たち地方銀行の特徴は、なんとと言っても「地域密着」。根ざす地域のお客様と共に成長し、発展していく…地域経済を担う仕事です。動画をご覧ください、ぜひ地方銀行をみなさんの就職先候補としてご検討ください。



## 「株式会社生活基盤プラットフォーム」を設立しました — 「ベンリィ」でライフイベントに伴う諸手続きのワンストップ化・オンライン化の実現を目指します！

当協会は、ライフイベントに伴う諸手続きのワンストップ化・オンライン化を実現するプラットフォーム・サービスの事業化に向けて検討を進めてきました。

5月1日、地銀ネットワークサービス株式会社（当協会に加盟する全61行の共同出資会社）、TOPPANエッジ株式会社の共同出資により、本サービスの運営会社として「株式会社生活基盤プラットフォーム」を設立しました (<https://www.life-event-pf.co.jp/>)。

本サービスの名称は「ベンリィ」とし、2025年11月を目途に、まずは、自治体への転出届の提出・転入予約、地方銀行の住所変更、口座振替登録がオンライン上で完結可能なプラットフォームとしてサービスを開始します。その後、手続き対象となる金融機関を拡大していくほか、段階的に対象手続き（電気・ガスをはじめとしたインフラ企業への停止・利用開始手続きやその他のライフイベントに応じた手続き等）の拡大を目指します。

### 株式会社生活基盤プラットフォームの概要



|       |                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------|
| 商号    | 株式会社生活基盤プラットフォーム                                    |
| (英字)  | (LIFE EVENT PLATFORM, Inc.)                         |
| 所在地   | 東京都中央区新川一丁目28番38号                                   |
| 代表者   | 林 敬恭                                                |
| 事業内容  | ライフイベントに伴う諸手続きのワンストップ化・オンライン化を実現するプラットフォーム・サービスの運営等 |
| 設立年月日 | 2025年5月1日                                           |
| 資本金   | 11億円                                                |
| 資本構成  | 地銀ネットワークサービス10億円（90.9%）、TOPPANエッジ1億円（9.1%）          |

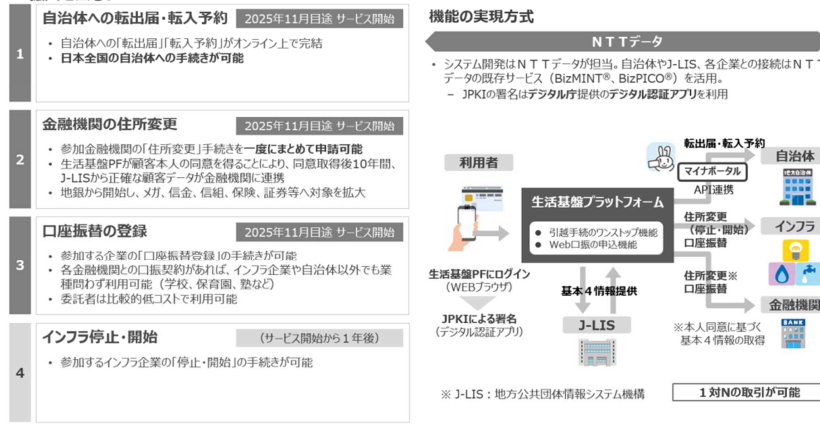


生活基盤プラットフォームのウェブサイトはこちら



### 「ベンリィ」のサービスイメージ

- まずは「引越し」に伴う諸手続きのワンストップ化・オンライン化を目指し、下表1～4の機能を実装予定 – 2025年11月を目途に1-3の機能を、その1年後に4の機能を実装予定（その後も順次機能拡充）
- システム開発を担当するNTTデータと共同出資者のTOPPANエッジの知見や実績を活かしてサービスや利用者層の拡大を図る。



くらしの手続き かんたん!ベンリィ!

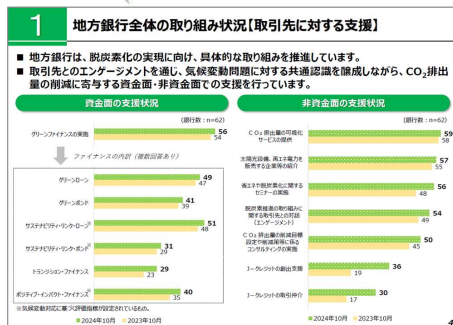


## 「地方銀行における環境・気候変動問題への取り組み」を公表しました

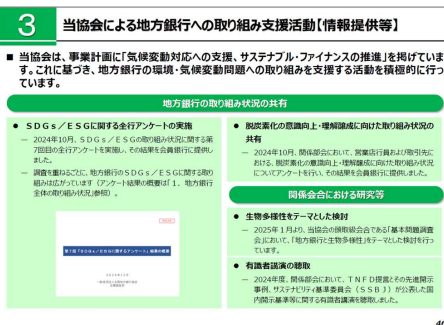
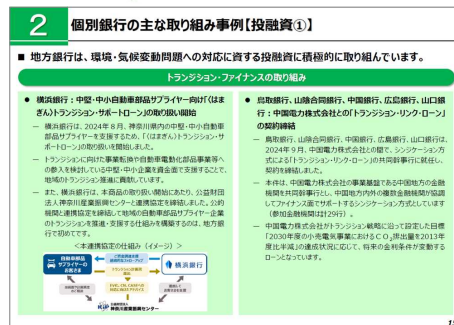
当協会は、環境・気候変動問題に対する地方銀行の取り組みを支援する活動を行っています。その一環として、5月14日、「地方銀行における環境・気候変動問題に関する取り組み」としてレポートを取りまとめ、公表しました。本レポートは年1回公表しており、今回で5回目となります。本レポートでは、次の4点について紹介しています。

- ①地方銀行全体の取り組み状況：地方銀行における態勢整備や、取引先に対する支援等の状況。
- ②個別銀行の主な取り組み事例：環境・気候変動問題への対応に資する投融資の具体的な事例等。

地方銀行全体の取り組み状況を  
グラフで掲載！



各行における様々な取り組みの事例を  
多数紹介！



協会として会員銀行の取り組み支援も  
行っています。

協会事務局自身も  
環境負荷低減に取り組んでいます。

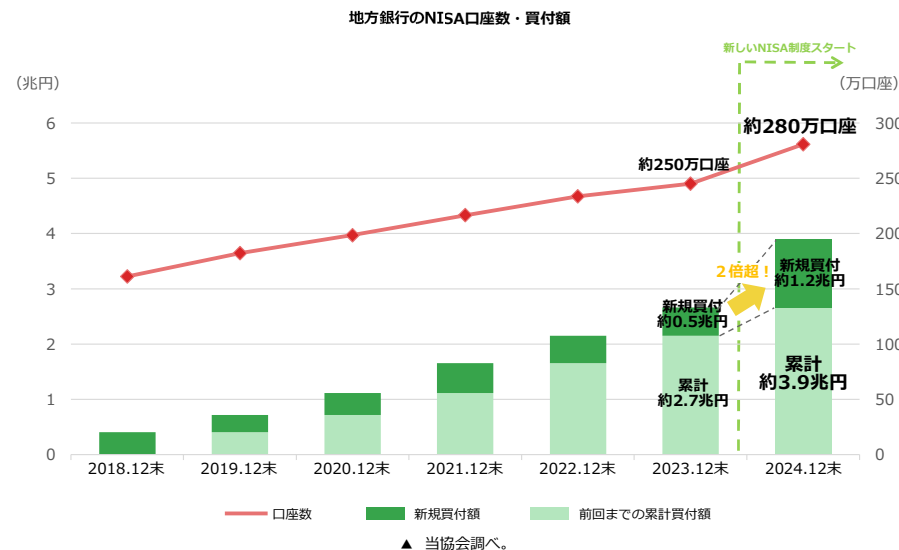
▲「地方銀行における環境・気候変動問題への取り組み」（2025年5月公表）より一部抜粋。

## 統計グラフ

## 地方銀行のNISA取扱状況は、口座数・買付額共に増加しています

つみたてNISA制度がスタートしてからの地方銀行におけるNISAの取扱状況の推移を見てみると、口座数、累計買付額とも著しく増加しており、2024年12月末時点で、**約280万口座**、**約3.9兆円**となっています。

また、新しいNISA制度がスタートした2024年の新規買付額（約1.2兆円）は、前年（2023年、約0.5兆円）の**2倍超**となっています。

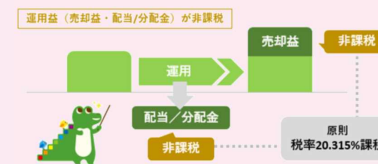


地方銀行は、引き続き、NISAを活用したお客様の資産運用をサポートしてまいります。

## NISA（少額投資非課税制度）とは？

通常、株式や投資信託などの金融商品に投資した場合、これらを売却して得た利益や受け取った配当・分配金に対して約20%の税金がかかります。一方、**NISA口座で投資した金融商品から得られる利益は非課税**となります。

▲ 金融庁「NISAを利用する皆さまへ」より抜粋。



# 一般社団法人全国地方銀行協会

Regional Banks Association of Japan

地銀協レポート Vol.17 2025年6月18日公表

一般社団法人全国地方銀行協会

〒104-0033

東京都中央区新川一丁目28番23号 5号館 5階

TEL 03-6262-8251

<https://www.chiginkyo.or.jp/>



地銀協レポートをお読みいただき  
ありがとうございます。  
ご意見・ご感想をお聞かせください。

地銀協公式Xでも、地銀界や会員銀行の  
取り組みを紹介しています。  
ぜひフォローしてください！

